



新福岡市長を表敬訪問

二月九日、藤香会を代表として中島敏行副会長、毛屋嘉明事務局長、田島満行会計三人の役員が福岡市役所に高島宗一郎新市長を表敬訪問しました。福岡市と藤香会は歴史的、地理的に深い関係があるからです。

福岡県は、明治になって筑前、筑後の二国と豊前の国六郡で誕生しましたが、その内の筑前の国一國が旧黒田領でした。黒田公が「筑前の国守」とか、「国持ち大名」といわれる所以です。

藩政時代、今の福岡市域は「福岡・博多両市中」といわれ、福岡は城下町、博多は町人町で、この二つが両々相まって福岡の雄藩をささえていました。

明治二十二年、市制施行で福岡区・博多区は福岡市となり、初代市長に山中立木氏が就任しました。山中市長は福岡区長時代に、那珂川河口の福・博を遮断していた石壁を、「福岡人士と博多人士の相容れざる感情」をつくり出しているとして、一八〇間にわたって取り除いた勇断でも知られます。

この山中市長は明治二十四年、藤香会の前身報告会を結成し、報告会の初代会長でもあります。



歴代市長の肖像額を背にして

高島市長へのごあいさつは、初代山中市長以下福岡市長歴代の肖像画が掲げられた応接室で行われました。中島副会長は、藤香会のあゆみや現況などを説明して、会活動のご理解を願いました。

藤香会関係 昨年度の主な行事とイベント

Table with 2 columns: Date (月日) and Event (行事・イベント). It lists various events from April to December, including annual meetings, memorial services, and community activities.

会員クリック⑩



藤香会とのご縁に感謝 藤香会会員 西川芳泉

私の旧姓は篠田です。篠田の家は代々藩医として黒田家に仕えていたそう、私は心から誇りに思っていました。しかし、籠の鳥だった私は先祖のことをくわしく知っていただけではありません。父が一夜にして黄泉の国と申しますのは、父が一夜にして黄泉の国

へ旅立ったからです。戦中のことではあり、私は我を忘れて母を守り、兄たちの復員を待ちわびる毎日でした。ところが、次兄は軍医中尉でビルマで戦死、軍医大尉の長兄はスマトラ島で戦犯となりました。戦前、戦中、戦後、日本始まって以来の波乱の時代で人には頼らず、わが家のものは悉く売り尽くしましたが、縁があつて新生活に入り、必死で自分の家庭を築き上げることができました。

お陰で先祖のことが深くわかるようになります。子々孫々にも伝えようと思っております。篠田家の先祖のことで最も脳裏に刻まれているのは、昭和二十五年崇福寺黒田家墓所の改葬作業中に、福岡藩四代藩主・黒田綱政公のご遺体が二百六十余年後に完全ミイラで発見されたことです。このご遺体の保存処置に当った御典医の一人が篠田宗山で、私の先祖というわけです。



草刈り作業を終わって - 107人の顔、顔…。

編集後記

本号の「会員クリック⑩」は、西川芳泉さんに登場していただきました。まったくの偶然に、定期総会での「卓話」のなかで綱政公のご遺骸のことが出ましたが、これも何かのご縁かと不思議でなりません。(平田)